

2024年3月期 第2四半期決算説明会

2023年11月15日



～超純水技術を駆使して人と水の未来を拓く～

野村マイクロ・サイエンス株式会社

東京証券取引所 プライム市場：6254

1 2024年3月期 第2四半期決算概況



2024年3月期第2四半期 決算のポイント

売上高： 36,555百万円（前年同期比87.2%増）

水処理装置： 28,970百万円（同114.9%増）

- ・受注済大型水処理装置案件の工事が想定以上に進捗
- ・その他の国内外水処理装置案件の工事も順調に進捗

メンテナンス及び消耗品： 6,192百万円（同22.6%増）

- ・半導体関連企業を中心に受注が堅調に推移

その他の事業： 1,392百万円（同39.8%増）

- ・国内、海外ともに半導体装置向け配管材料の受注が増加

営業利益： 5,722百万円（前年同期比同259.9%増）

- ・低採算案件が前期までに一巡
- ・水処理装置案件が順調に進捗し、増収効果により売上総利益増益
- ・為替円安基調推移が追い風

経常利益： 6,242百万円（前年同期比242.1%増）

- ・為替差益 586百万円

親会社株主に帰属する四半期純利益： 4,061百万円（前年同期比223.0%増）

損益計算書の概要



	2023年3月期 (上期)		2024年3月期 (上期)				
	金額 (百万円)	構成比 (%)	期初計画 2023/5/15	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
						増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	19,531	100.0	25,407	36,555	100.0	+17,023	+87.2
売上総利益	3,336	17.1	5,519	7,909	21.6	+4,572	+137.0
営業利益	1,590	8.1	2,871	5,722	15.7	+4,132	+259.9
経常利益	1,824	9.3	2,863	6,242	17.1	+4,417	+242.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,257	6.4	2,192	4,061	11.1	+2,804	+223.0

貸借対照表の概要



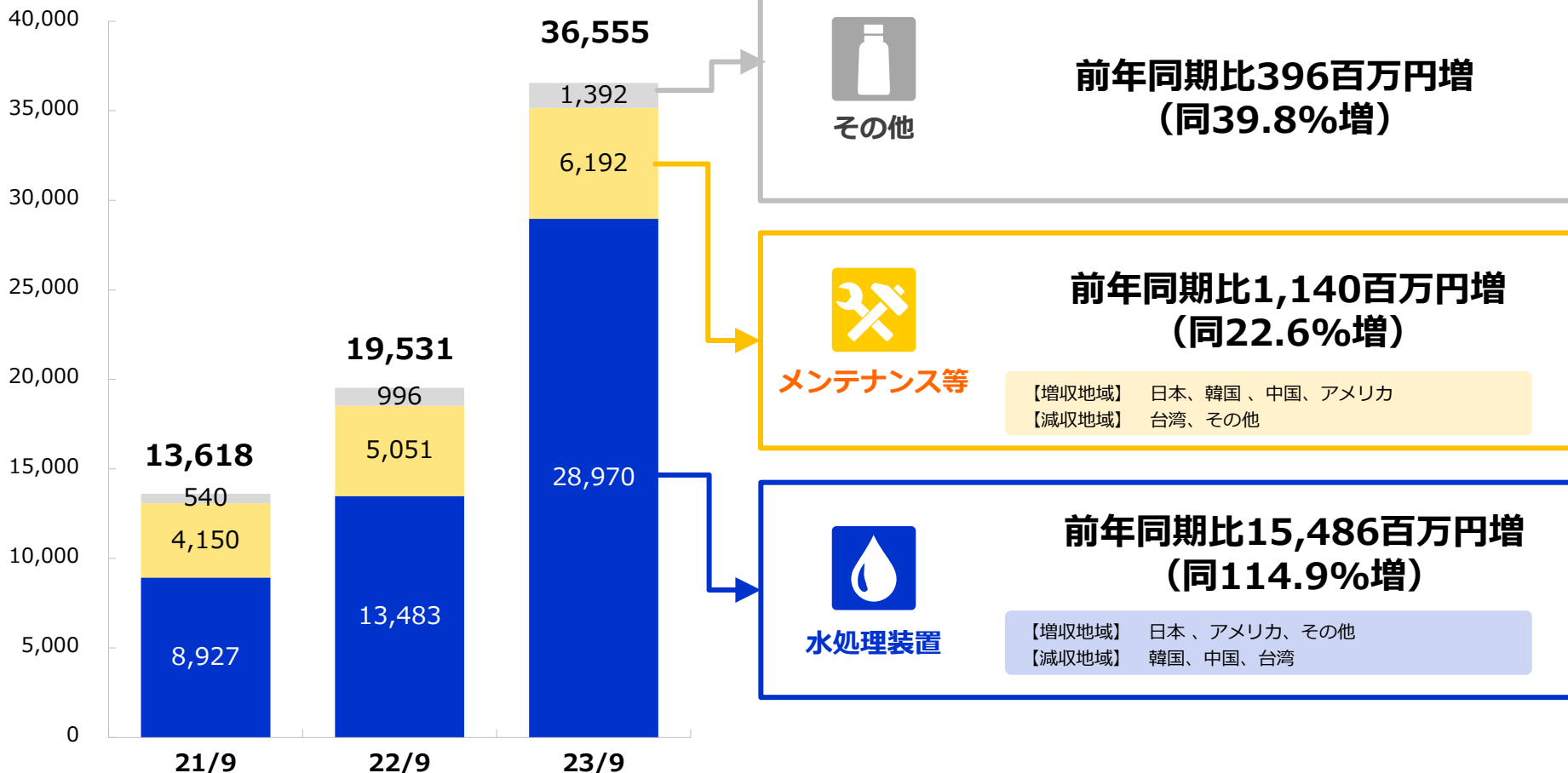
	2023年3月期 (期末)		2024年3月期 (上期)			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	37,179	88.7	51,805	91.5	14,626	現金及び預金 +7,415 受取手形、売掛金及び契約資産 +5,667 仕掛品 +612
固定資産	4,739	11.3	4,786	8.5	46	
資産合計	41,918	100.0	56,591	100.0	14,673	
流動負債	20,043	47.8	30,704	54.3	10,660	支払手形及び買掛金 +3,075 短期借入金 +11,484
固定負債	474	1.1	386	0.7	△87	
負債合計	20,517	48.9	31,091	54.9	10,573	
純資産合計	21,401	51.1	25,500	45.1	4,099	利益剰余金 +3,038
負債・純資産合計	41,918	100.0	56,591	100.0	14,673	

事業別売上高

水処理装置事業

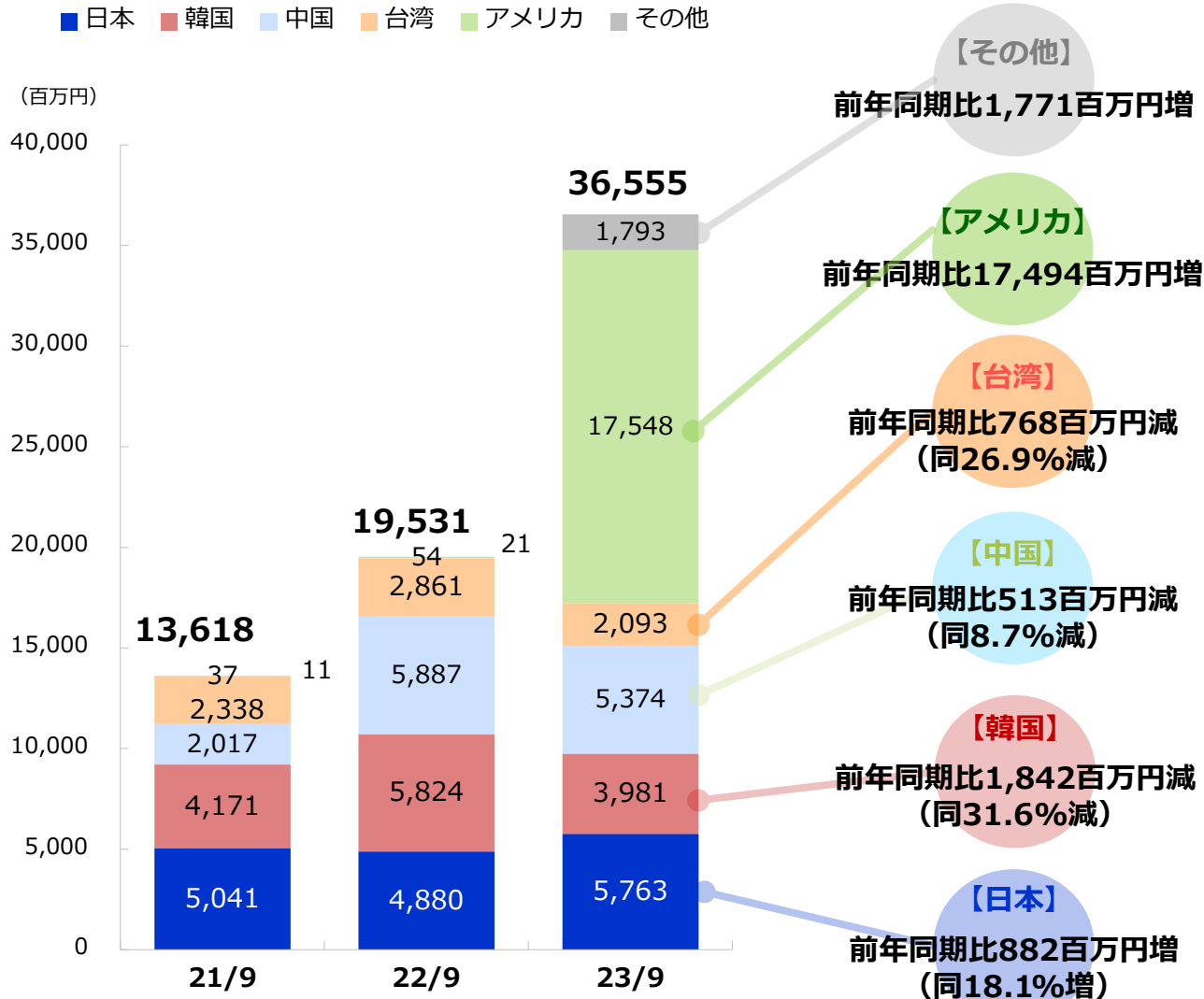
■ 水処理装置 ■ メンテナンス等 ■ その他の事業

(百万円)

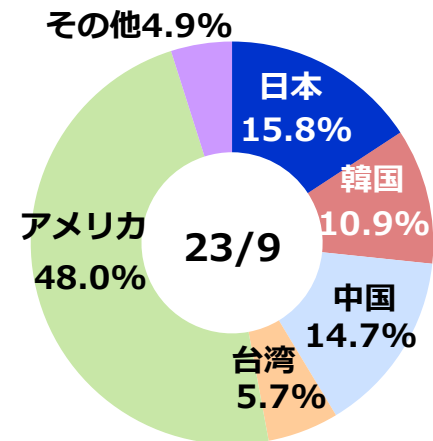
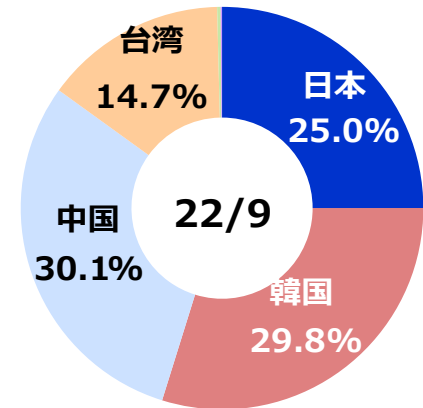


地域別売上高・売上構成

※顧客の所在地別にて集計



アメリカ 0.3% その他0.1%

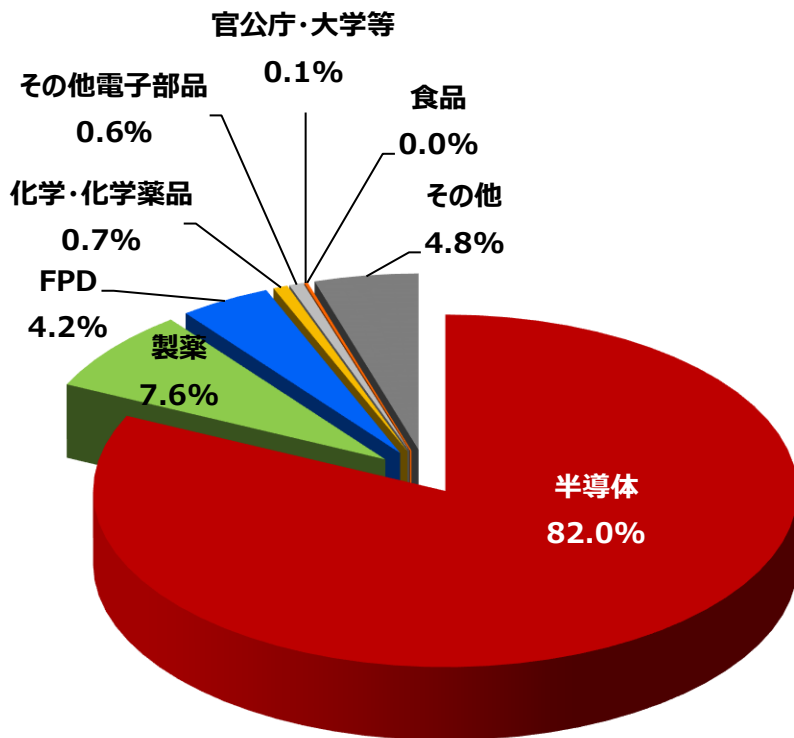


業種別売上構成

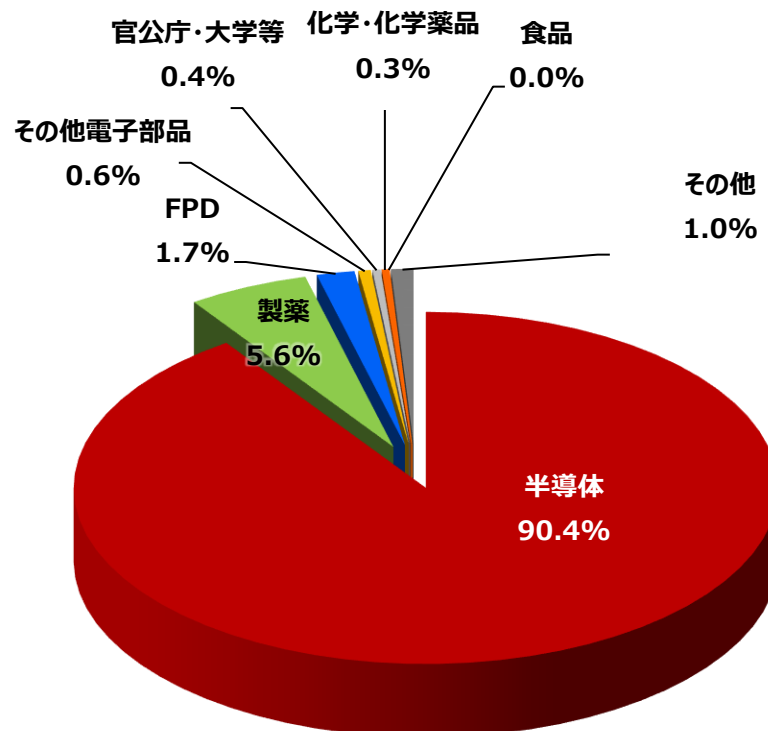


売上相手先別 (メンテナンス・消耗品を含む)

2023年3月期 第2四半期



2024年3月期 第2四半期

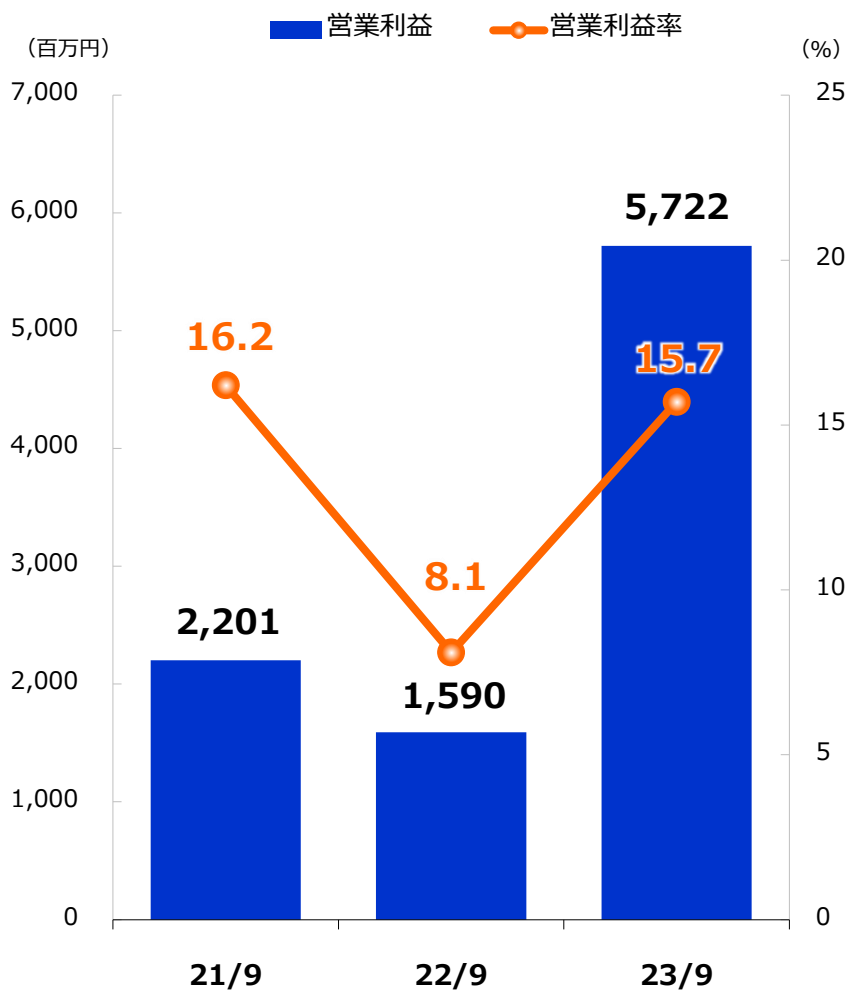


FPD : フラットパネルディスプレイ

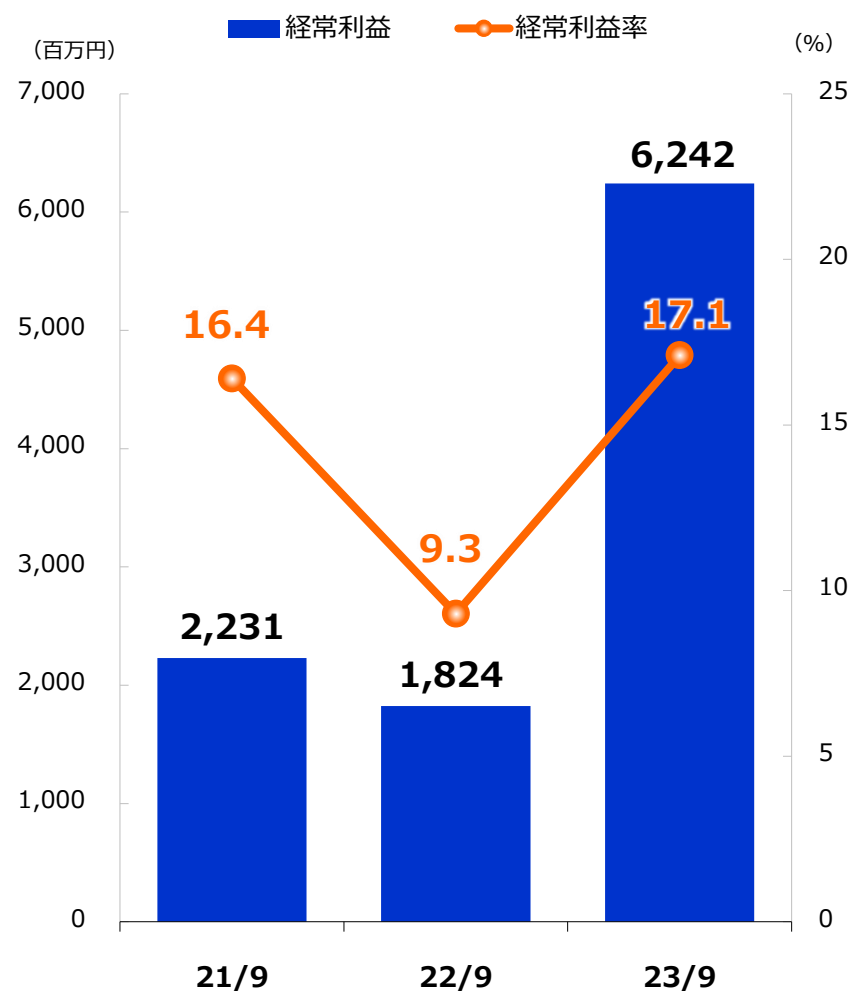
営業利益・経常利益



営業利益

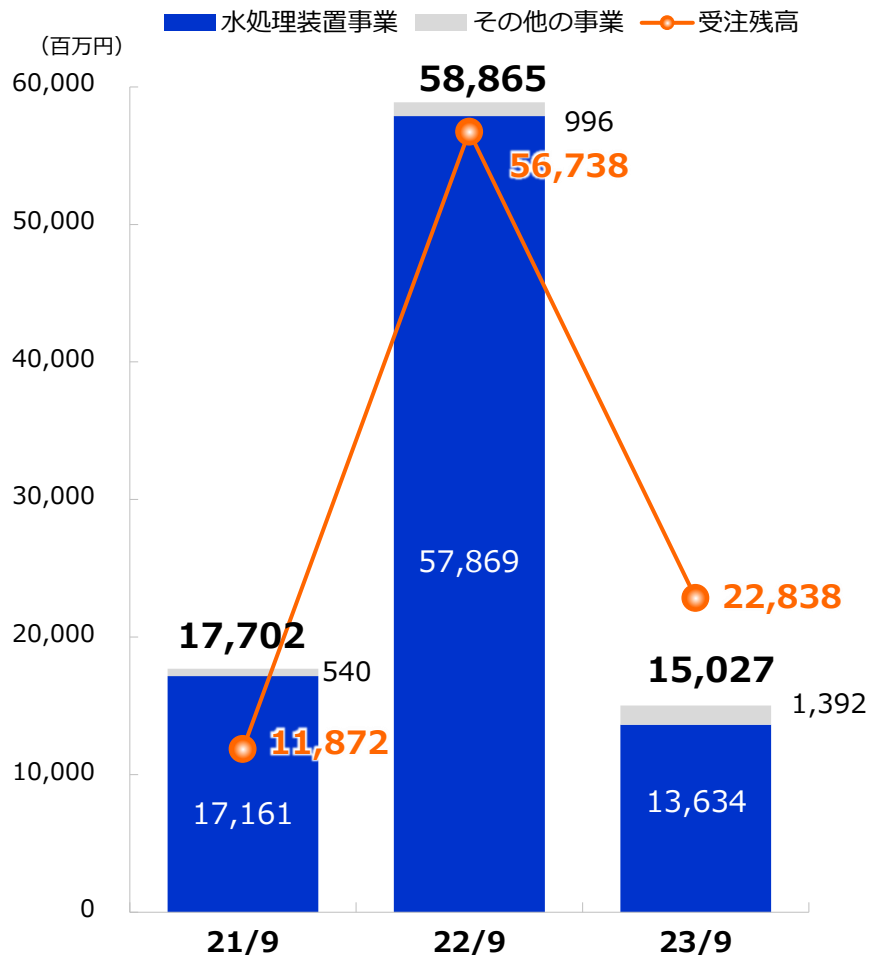


経常利益

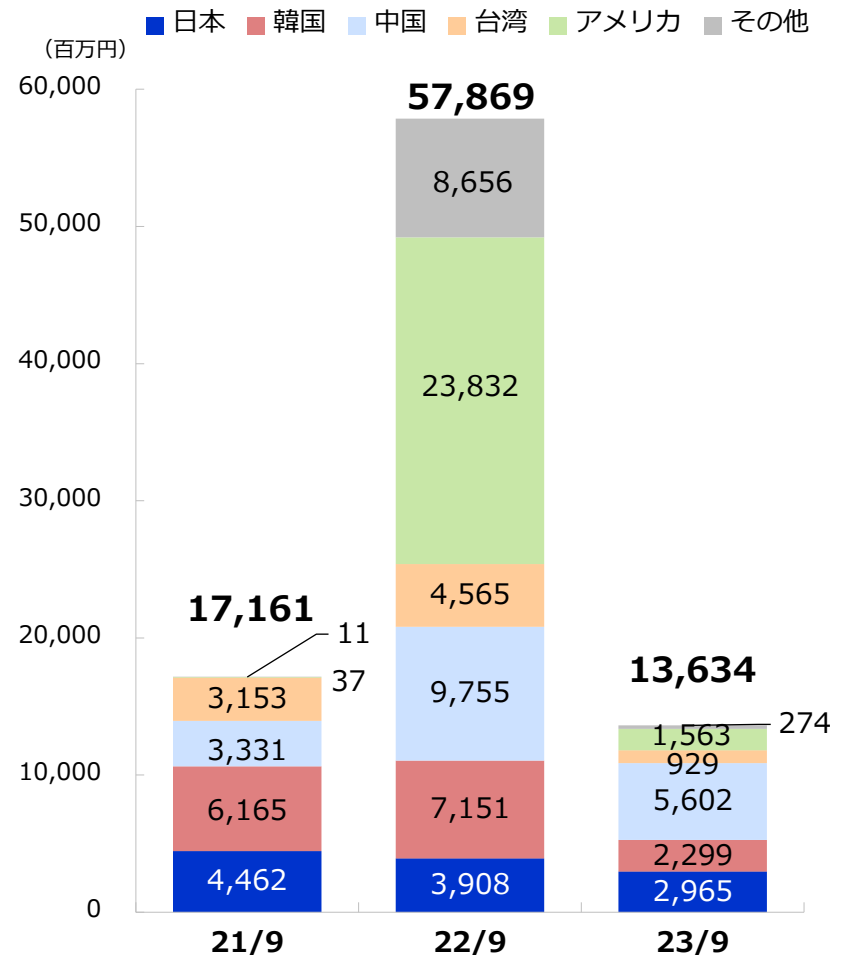


受注高・受注残高

事業別受注高



水処理装置事業の地域別受注高



キャッシュ・フローの概要

	2023年3月期 (上期)	2024年3月期 (上期)	主な増減要因 (百万円)
営業キャッシュ・フロー	8,464	△3,673	税金等調整前当期純利益 +6,250 売上債権の増加額 △4,513 契約負債の減少額 △5,540
投資キャッシュ・フロー	△38	574	定期預金の払戻による収入 +654
フリーキャッシュ・フロー	8,425	△3,099	
財務キャッシュ・フロー	266	10,470	短期借入による収入 +12,170 配当金の支払額 △1,022
現金及び現金同等物の増減額	9,201	8,037	
現金及び現金同等物の第2四半期末残高	17,649	21,253	

2 2024年3月期業績見通し



2024年3月期決算の見通し

売上高は前期比45.2%増の72,000百万円

水処理装置 : 55,616百万円 (前期比57.8%増)

- ・国内、アメリカ等を中心に大型水処理装置案件の受注を見込む
- ・受注済案件に関しても順調に進捗する見通し

メンテナンス及び消耗品 : 13,717百万円 (同18.6%増)

- ・半導体、製薬中心に各地域で受注が堅調に推移

その他の事業 : 2,666百万円 (同4.1%減)

- ・配管材料を中心に引き続き高水準で推移する見通し

増収効果により営業利益、経常利益で増益

営業利益 : 9,650百万円 (前期比47.3%増)

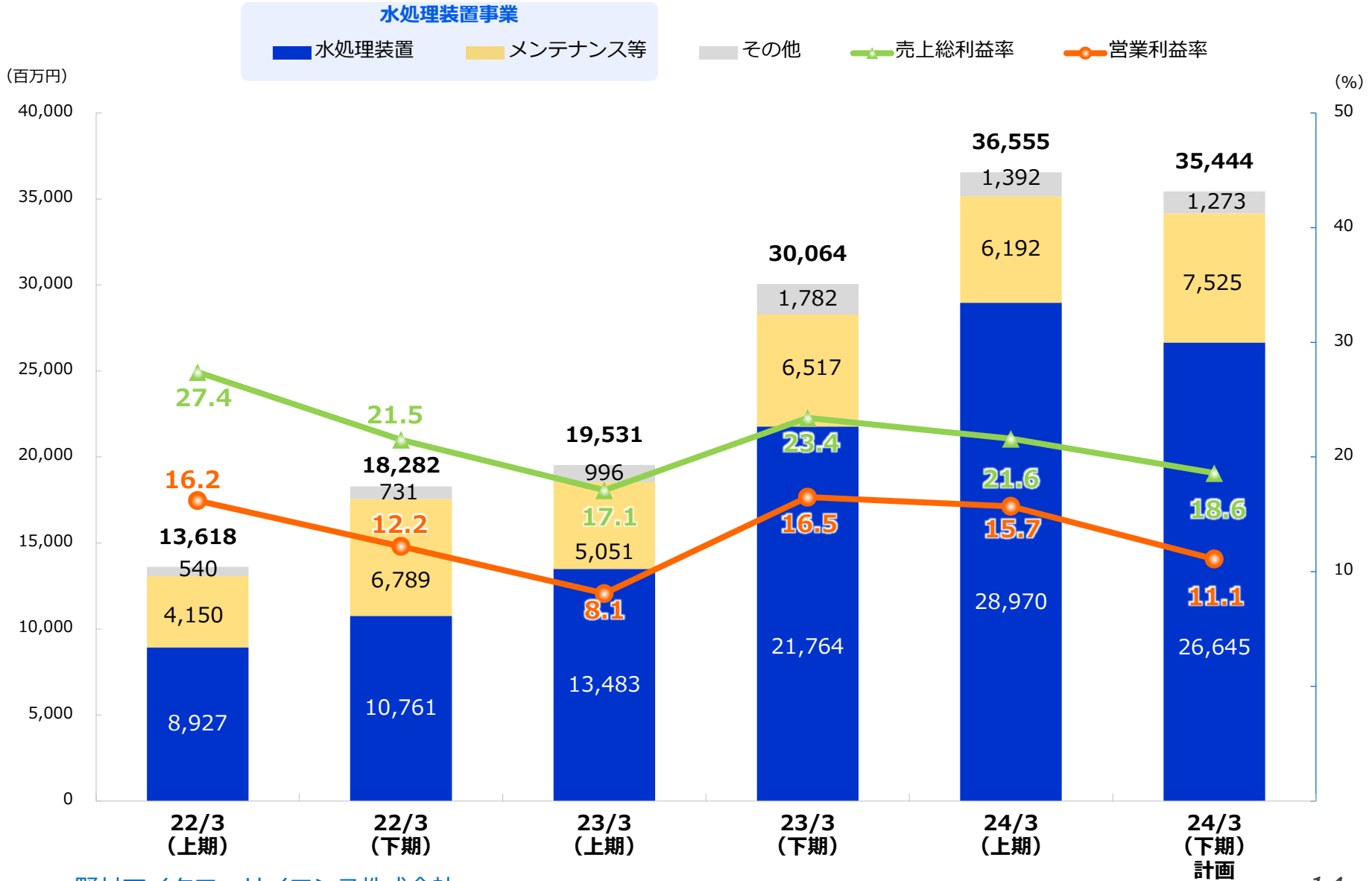
親会社株主に帰属する当期純利益 : 6,700百万円 (同15.4%増)

2024年3月期業績見通し



	2023年3月期			2024年3月期				
	上期 (実績)	下期 (実績)	通期 (百万円)	上期 (実績)	下期 (計画)	通期 (計画) (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	19,531	30,064	49,595	36,555	35,444	72,000	+22,404	+45.2
売上総利益	3,336	7,035	10,372	7,909	6,591	14,500	+4,128	+39.8
営業利益	1,590	4,960	6,550	5,722	3,928	9,650	+3,099	+47.3
経常利益	1,824	4,591	6,416	6,242	3,308	9,550	+3,133	+48.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,257	4,548	5,806	4,061	2,639	6,700	+893	+15.4
1株当たり当期純利益	136.42円	-	627.60円	435.51円	282.11円	717.62円	+90.02円	+14.3
1株当たり配当金	40.00円	110.00円	150.00円	60.00円	100.00円	160.00円	+10円	-

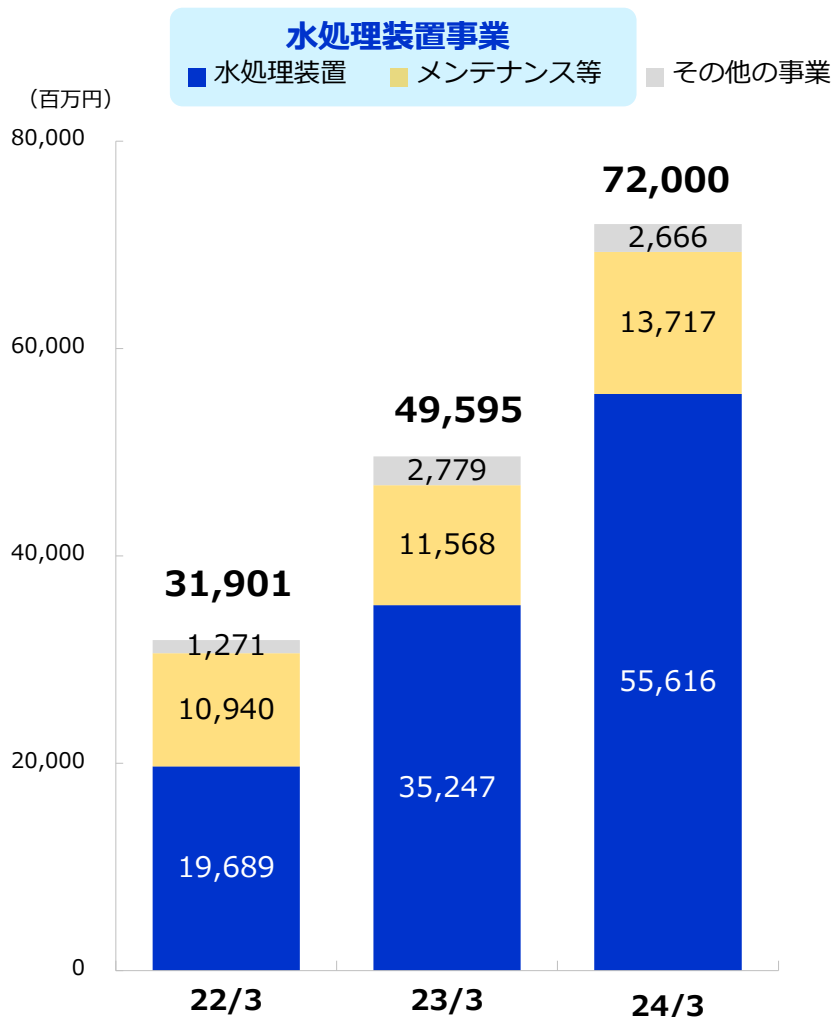
業績推移 (半期毎)



事業別・地域別売上高



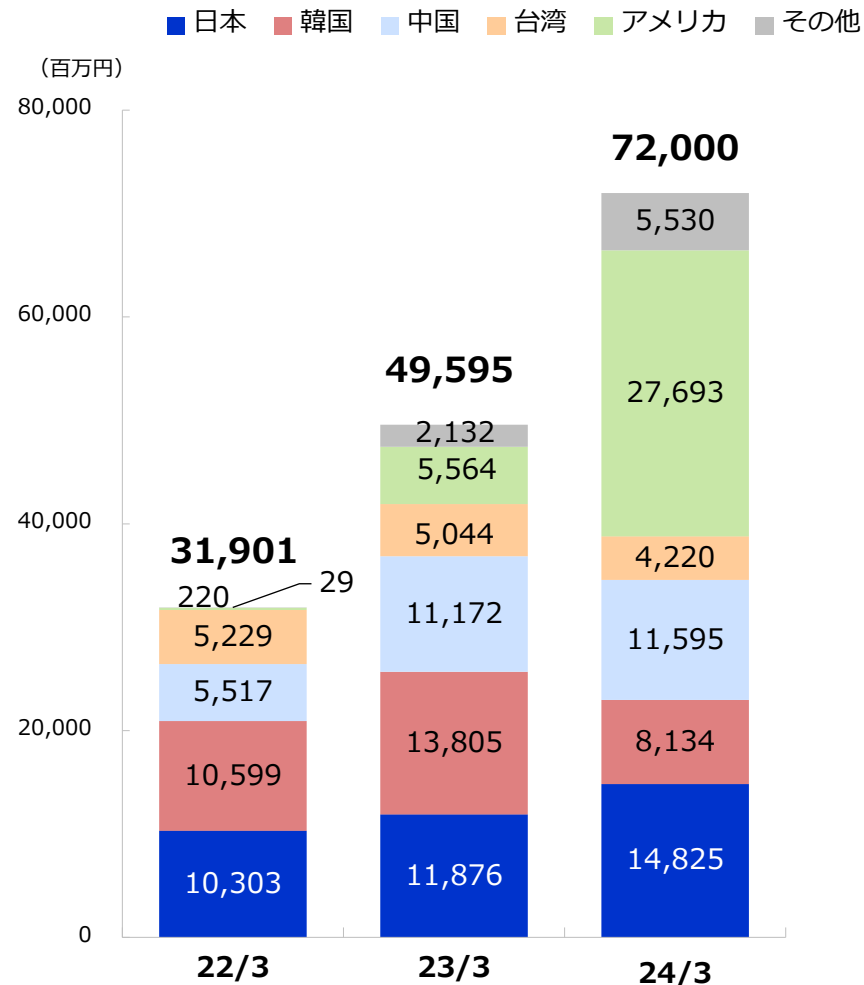
事業別売上高



野村マイクロ・サイエンス株式会社

(計画)

地域別売上高

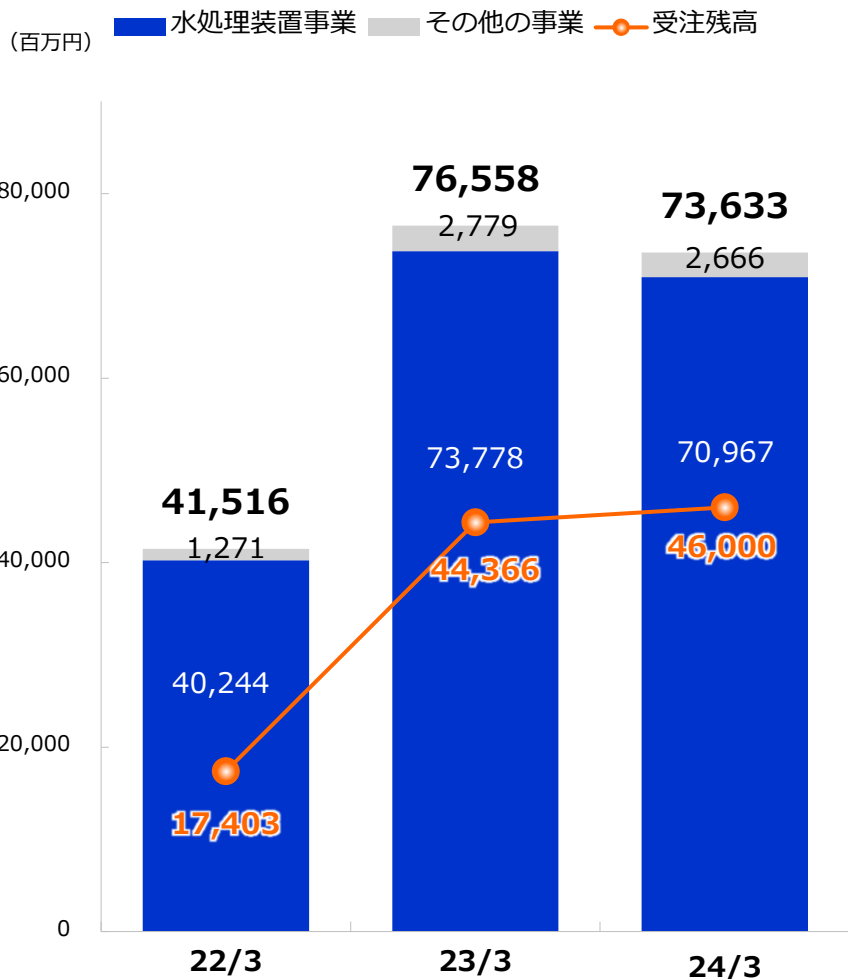


(計画)

受注高・受注残高

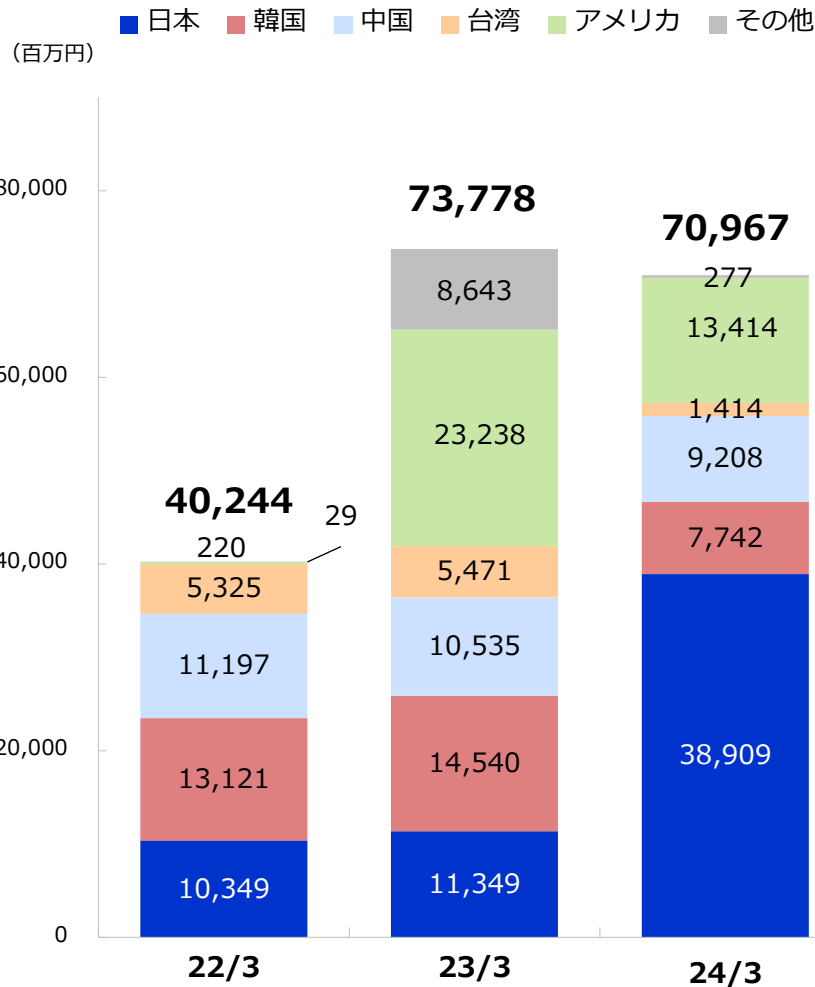


事業別受注高



野村マイクロ・サイエンス株式会社

水処理装置事業の地域別受注高

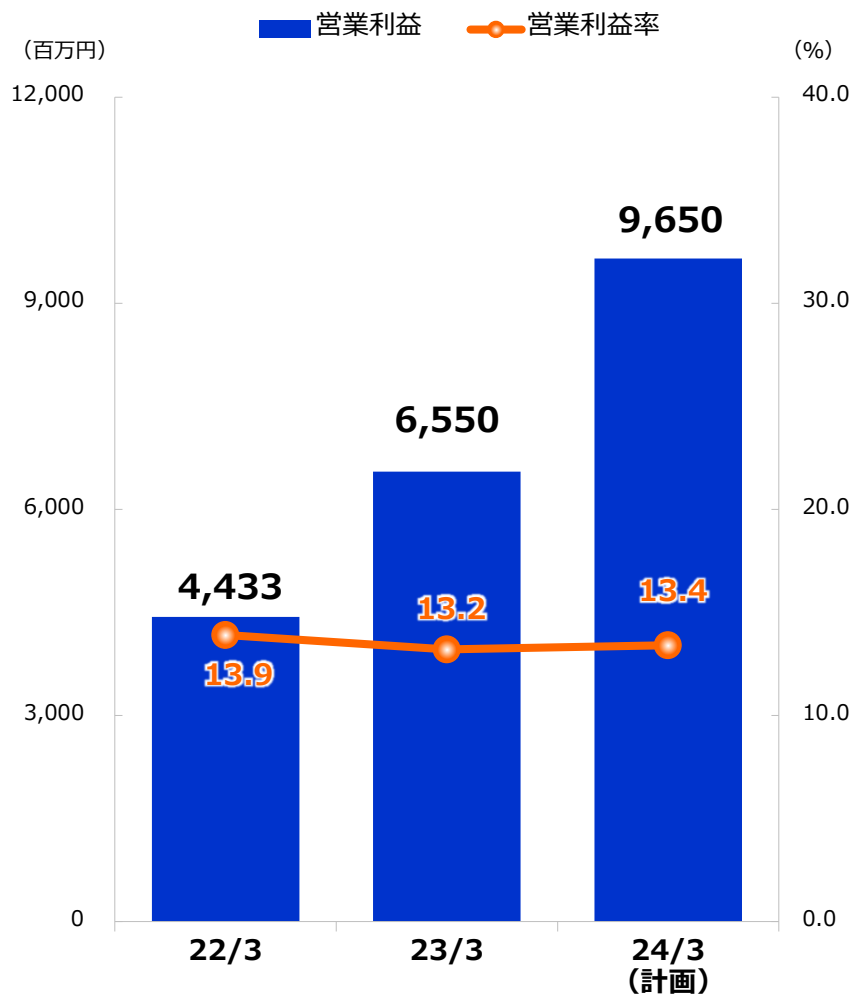


(計画)

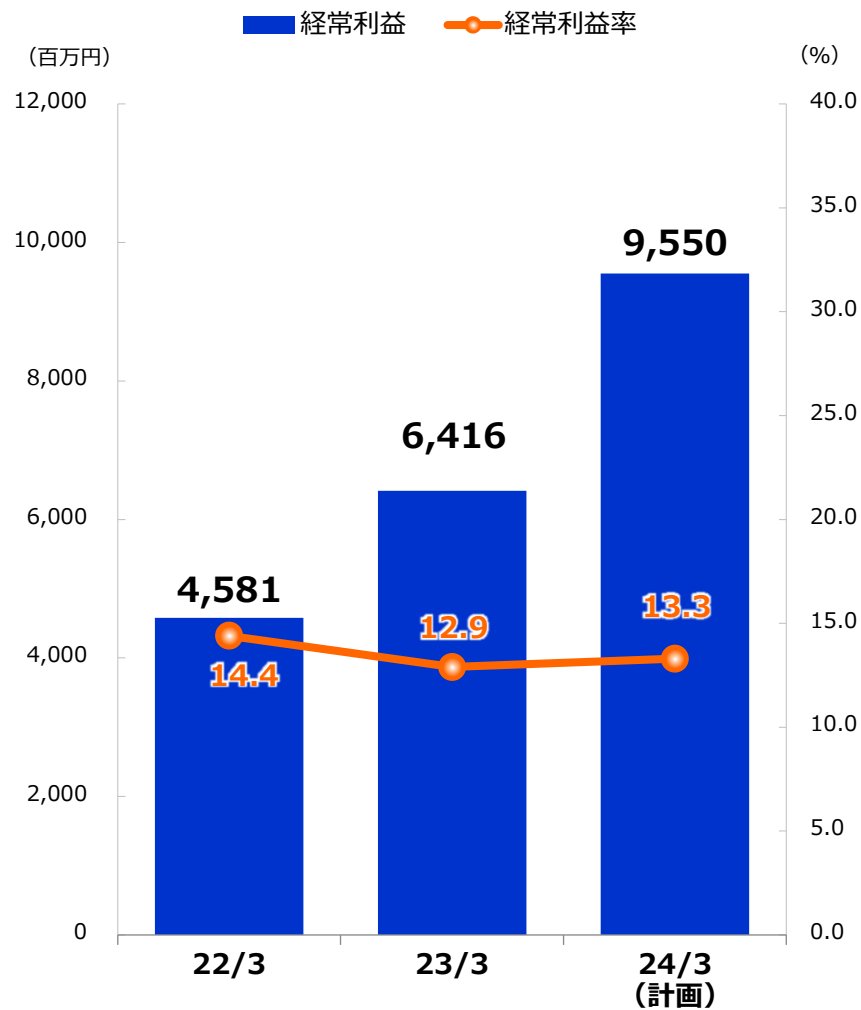
営業利益・経常利益



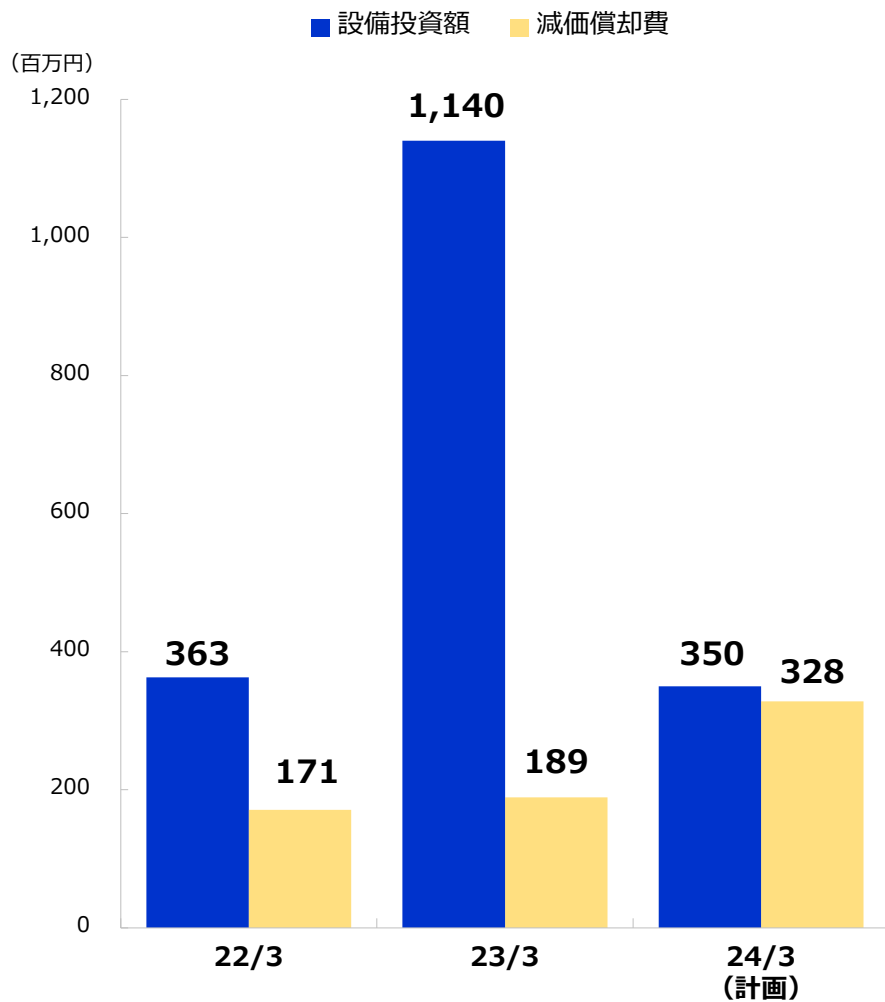
営業利益



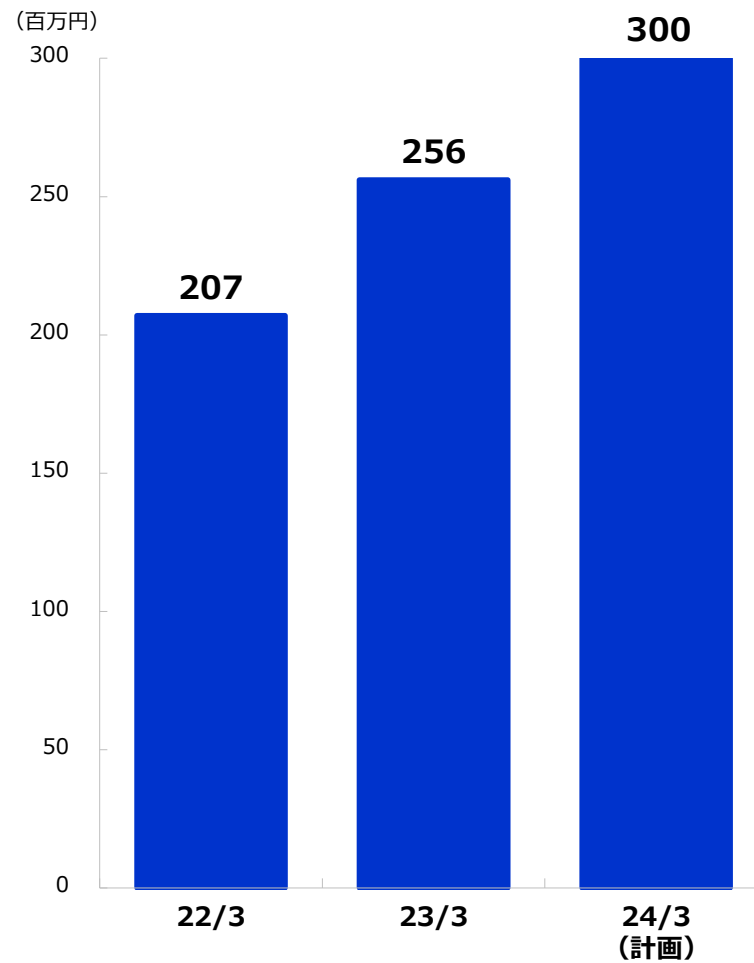
経常利益



設備投資・減価償却費



研究開発費



3 中期経営計画



TTT-26

Together Toward Transformation-26

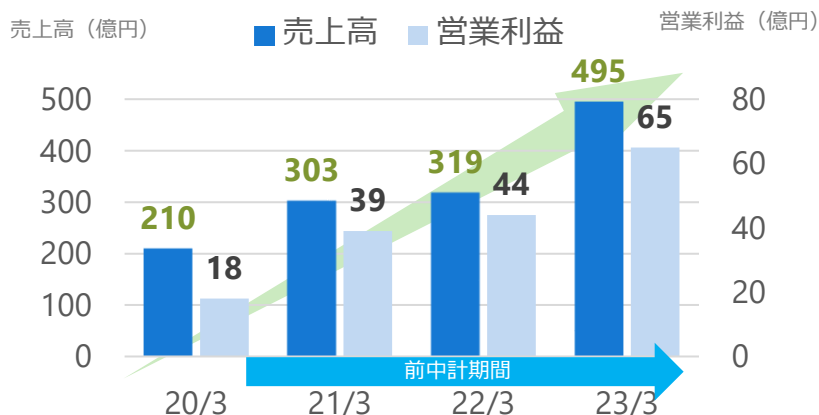
Creating the Future through Ultra-Pure Water Technology

～超純水技術で未来を創造する～

前中期経営計画（HiPES-2023）の振り返り～目標数値



NMS連結業績推移



前中期経営計画HiPES-2023（リバイス） 2021年11月12日公表

➤ 経営計画目標数値（2024/3期）

売上高 415億円

営業利益12%（50億円以上）



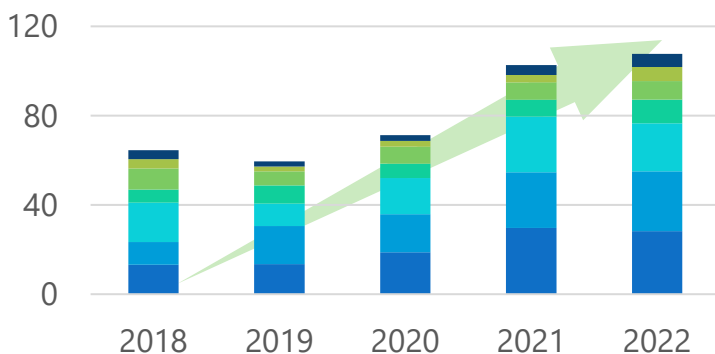
➤ 実績（2023/3期）

売上高 495億円 達成

営業利益13.2%（65億円） 達成

半導体製造装置販売額推移

単位：BillionUSD



■中国 ■台湾 ■韓国 ■北米 ■日本 ■欧州 ■その他

・出典：SEMI 世界半導体製造装置販売額

- ✓ コロナ禍による行動様式、価値観の変化がデジタル化を加速、情報通信技術を促進
- ✓ 脱炭素目標など気候変動対応としてのGXを標榜した投資競争が激化
- ✓ 地政学リスクの高まりがサプライチェーンの混乱を招き、経済安全保障の重要性が顕在化

• 半導体設備投資が活況であり、当社受注も好調に推移し、計画1年前倒しで目標数値達成

• 2024年3月期も業績伸長の見込みであり、売上、利益ともに過去最高となる見通し

エンジニアリング体制強化 生産効率UP

- エンジニアリング機能を区分した専担制導入
- 新基幹システム導入
- 外部ネットワーク強化：協力会社と需給情報共有等

研究開発

- 分析精度向上と高性能半導体用超純水水質UP
- 省エネ、省スペース超純水システム納入

戦略投資

- 膜と樹脂の洗浄・精製設備投資増強
- 厚木地区再編として新棟建設⇒新研究棟、新開発棟建設へ

人材育成・補強

- エンジニアリング部門中心に人員増強
- マネジメント強化に向けた研修体制構築
- エンジニアリング部門での女性の活躍

SDGs取組み

- NMS製品の推進（膜式注射用水製造装置、ノンケミカル型超純水装置）
- TCFDへの対応

経営ビジョン

- アジアを中心とした半導体・製薬工場向け超純水装置の卓越した会社を目指す
- 高度な技術とサービスを顧客に提供し、ベストパートナーとして共に**経済的価値**と同時に**社会的価値**を創造するサステナビリティ経営を実行する会社を目指す

経営目標

	2027年3月期(中期目標)	2031年3月期(長期目標)
売上高	1,010億円	1,200億円
営業利益	146億円	192億円
営業利益率	14.5%	16.0%
自己資本利益率 (ROE)	25%以上	30%以上
投下資本利益率 (ROIC) *	22%以上	25%以上

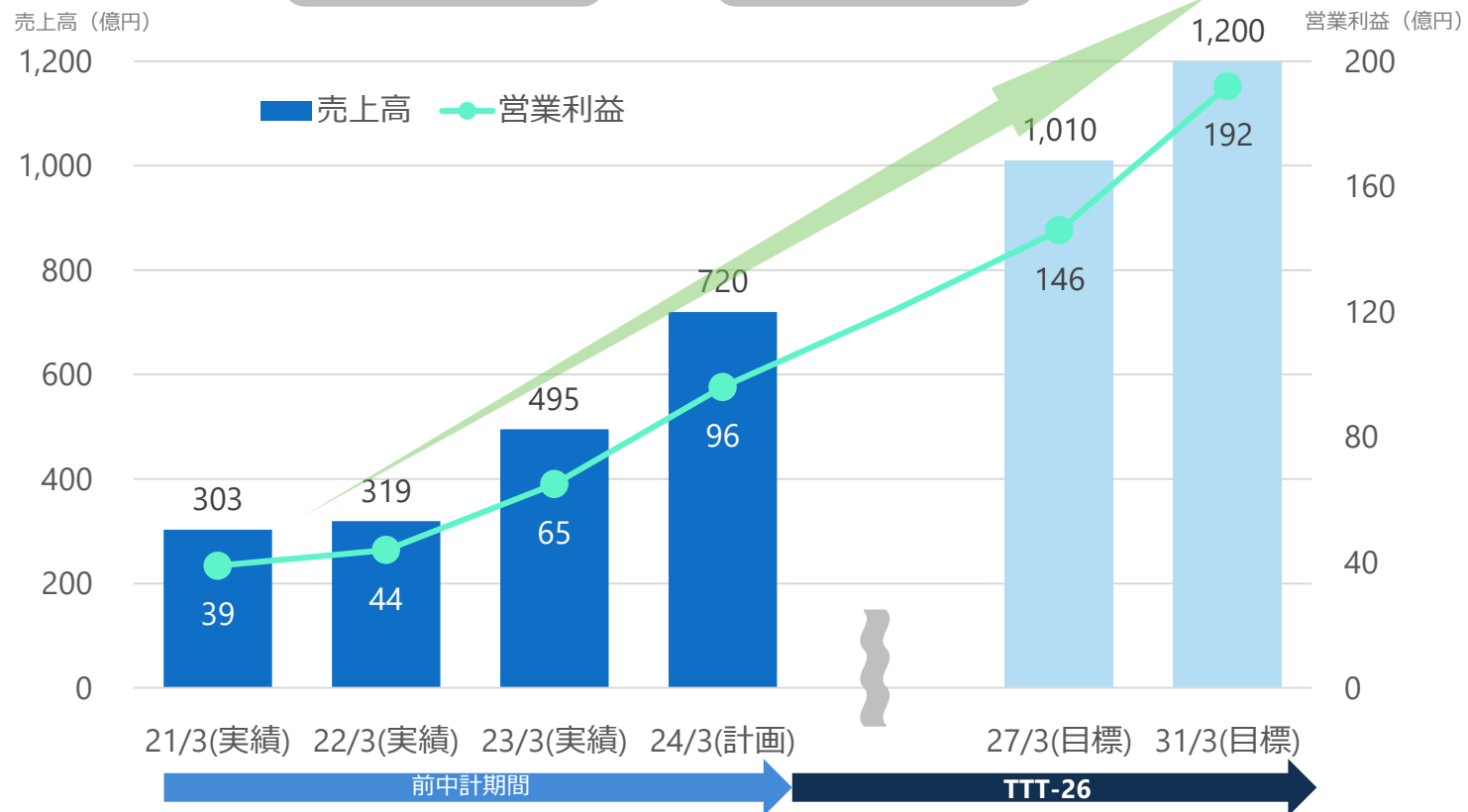
*ROIC = 税引営業利益 ÷ (有利子負債 + 株主資本)

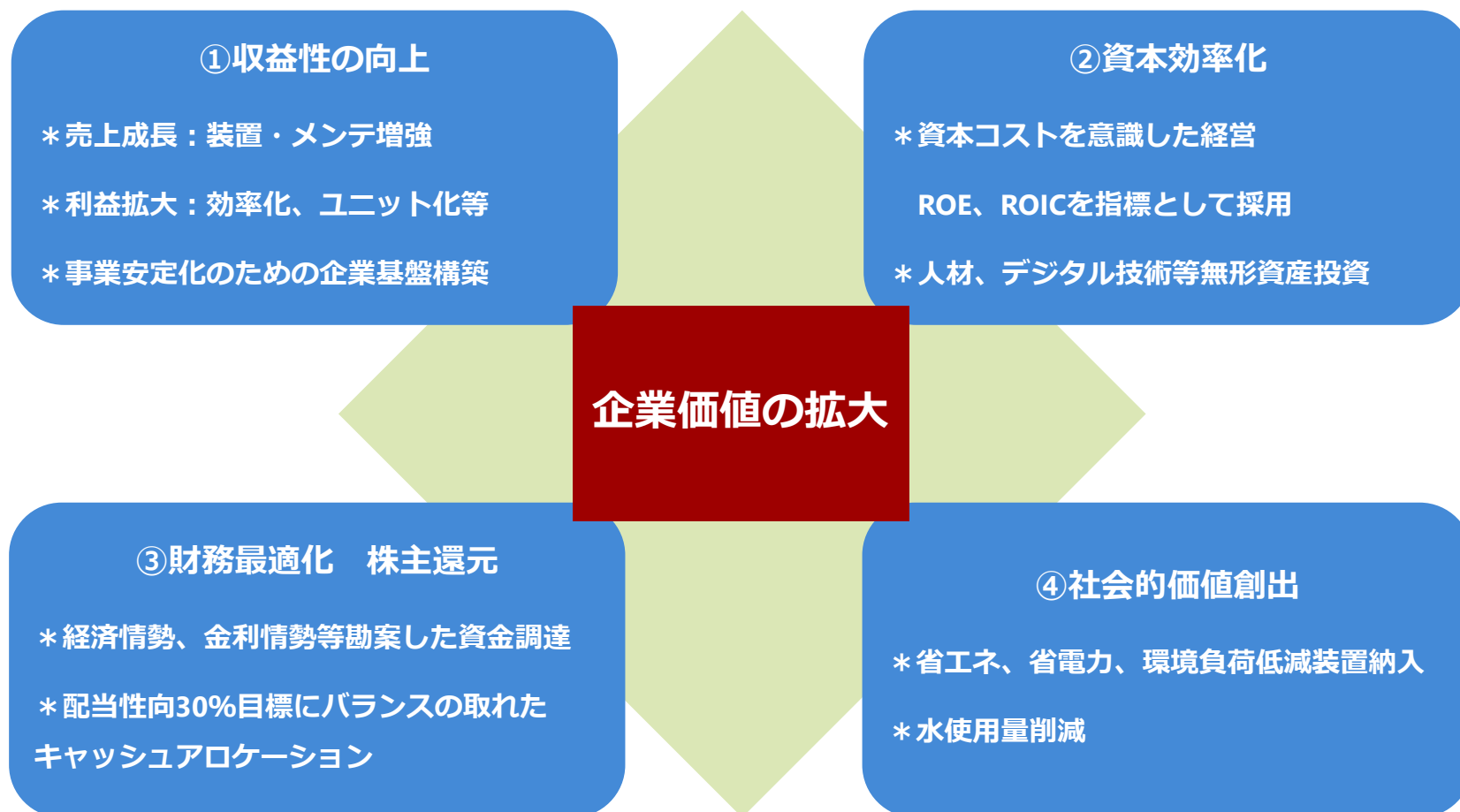
新中期計画TTT-26 ハイライト

	売上高	営業利益	ROE	ROIC
2027年3月期	1,010億円	146億円	25%以上	22%以上
2031年3月期	1,200億円	192億円	30%以上	25%以上

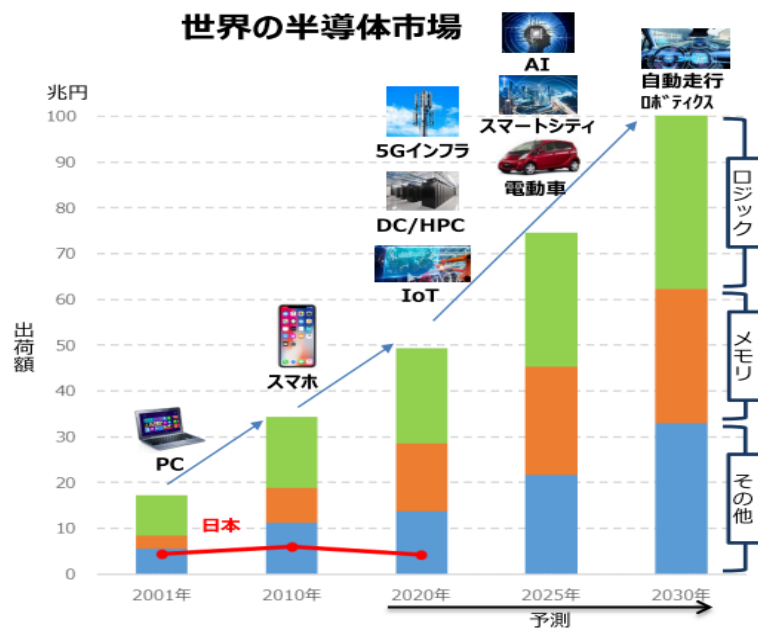
CAGR11.6%
(2023-2026)

CAGR7.6%
(2023-2030)





- ◆ 主要ドメインである半導体市場は2025年75兆円、2030年100兆円規模へ拡張の見込み CAGR7.2%成長（2030年まで） *資料.1
- ◆ デジタル投資、グリーン投資、エネルギー消費量の増大が半導体需要を加速させる
 - ▶ AI、IoTなどデジタル技術の活用拡大は電気消費量の急増へ：半導体は「性能向上」と「エネルギー効率改善」を両立
- ◆ 半導体プロセス微細化とともに超純水使用量の増加が見込まれている



	市場規模 2018年	製品例	主要企業
ロジック (制御用)	21兆円	プロセッサ	intel, tsmc
		GPU	QUALCOMM, NVIDIA
		SoC	
メモリ (データ記憶用)	18兆円	DRAM	SAMSUNG, SK hynix
		NAND	Micron, KIOXIA
その他	15兆円	アナログLSI	Infineon, SONY
		パワー半導体	
		イメージセンサ	ON Semiconductor, MITSUBISHI ELECTRIC

(出典) Omdiaのデータを基に経済産業省作成

資料.1 出典：経済産業省 半導体・デジタル産業戦略

半導体関連

◆ 重要顧客の計画に沿い、且つCSVに基づく提案

- ▶ 高度な要求水質への対応とともに省電力・省スペース・水再利用等への対応

◆ 急激な成長を見込む半導体関連メーカーへのアプローチ強化

- ▶ 関連製造装置メーカー、薬品メーカーほか、あらゆる半導体関連企業で業容拡大・投資大型化の傾向
- ▶ 国内企業との取引増加：取引維持・継続・拡張のため顧客ニーズに合致した提案、アフターサービス（AS）の充実に注力
- ▶ 顧客サービス、関係強化としての運転管理業務拡充：顧客負担軽減、故障・不具合の未然防止及び安定収益確保

◆ 経済安全保障として半導体の戦略物資化が進む：半導体製造拠点の同盟国への分散化への対応

- ▶ 半導体生産拠点の世界各地への分散：顧客投資動向により個別検討・対応

製薬関連

◆ 成長分野をターゲットとしたアプローチ強化

- ▶ ワクチン、検査薬、バイオ医薬品への対応

◆ NMSの強みを活かした営業活動

- ▶ 膜式注射用水製造装置（UF型WFI）による省エネルギー設備、大型製薬用水設備の提案
- ▶ 営業からエンジニアリング、ASまで一貫したサービス提供可能な組織体制
- ▶ 海外展開も視野

エンジニアリング／研究開発

エンジニアリングプロセスの改革

◆ エンジニアリング業務効率化

- プレハブ型施工、スキッド化、モジュール化の促進強化：工期短縮、コスト低減
- サプライチェーンの強化・拡大～強いパートナーシップの形成

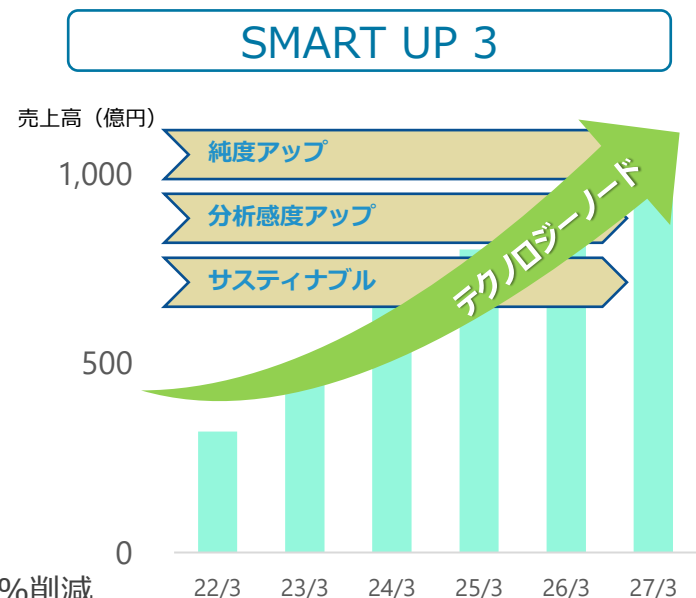
◆ 業容拡大のためのエンジニアリング運営体制構築

- 業務細分化促進、人材育成の強化

研究開発

◆ SMART UP3の加速

- 純度アップ
 - ・装置素材の超高純度化：メタルフリー
- 分析感度アップ
 - ・ppqレベルの開発に注力
- 環境貢献アップ
 - ・当社製品導入による環境負荷低減
 - ・熱回収、圧力回収等の利用による省電力化：目標20%削減
 - ・排水回収、汽水・下水再利用による水使用量削減：目標20%削減



投資・財務／人的資本

戦略投資

◆ 新研究棟及び新開発棟建設

- ▶ ppqレベル分析技術の開発を強化し、超純水システム内の不純物発生要因解明に向けた研究の実現と次世代半導体向け超純水製造装置のシステム評価・運転制御方法の開発を実施

財務戦略

◆ 外貨債権に対する為替リスク管理強化

- ▶ 連結各社で増加基調の外貨建て債権に対するリスク管理を強化

人的資本強化

◆ 人材育成・教育

- ▶ 人材開発室（新設）による全社的研修制度の確立とエンジニアを中心とした技術支援強化

◆ ダイバーシティ&インクルージョン

- ▶ 多国籍人材採用、女性管理職登用

◆ 社員エンゲージメント、経営参画意識の向上

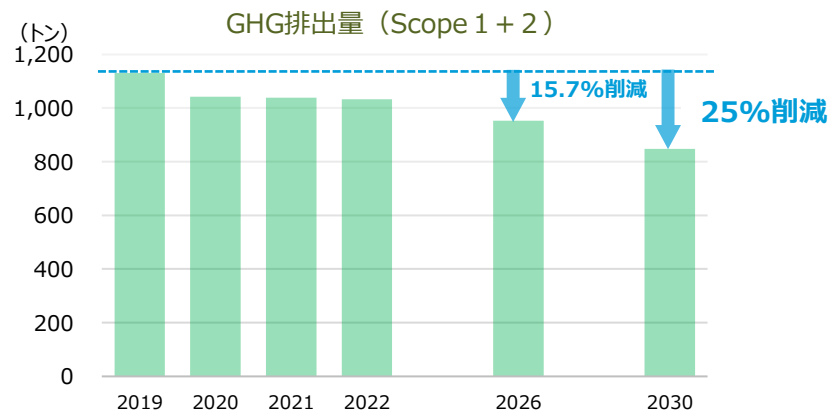
- ▶ エンゲージメントサーベイ実施、株式報酬制度拡充による経営参画意識の高揚

GHG*排出量削減目標 Scope1+2

◆ 2030年度までに25%削減（2019年度比）

- 事業活動により排出するGHG排出量を削減
 - ・ 太陽光発電パネル設置による再生可能エネルギー創出
 - ・ モーダルシフト推進
 - ・ エコロジーカー（EV、HV）導入促進

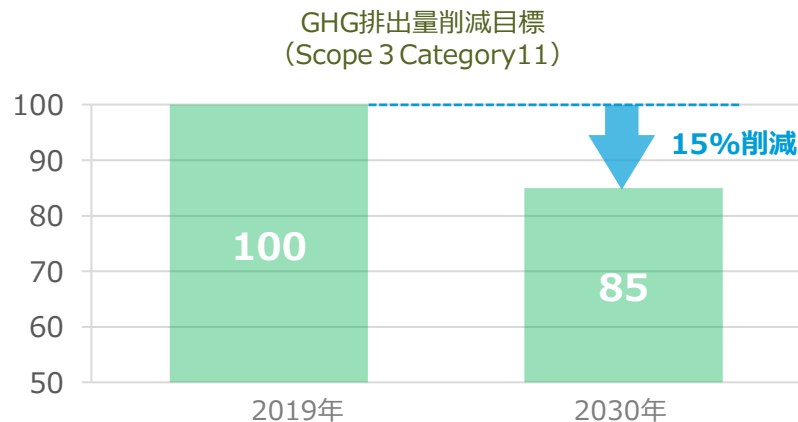
*GHG=温室効果ガス



GHG排出量削減目標 Scope3 Category11

◆ 2030年度までに新規納入超純水製造装置のGHG排出を15%削減

- 地球環境に配慮した超純水技術の提案により最先端半導体製造を持続的にサポート
 - ・ 超純水装置の省エネ技術を発展させGHG排出量削減
 - ・ 水再利用技術とエネルギー回収を推進（熱再利用等）
 - ・ 薬品を使用しない装置、プロセスの提案



株主還元方針

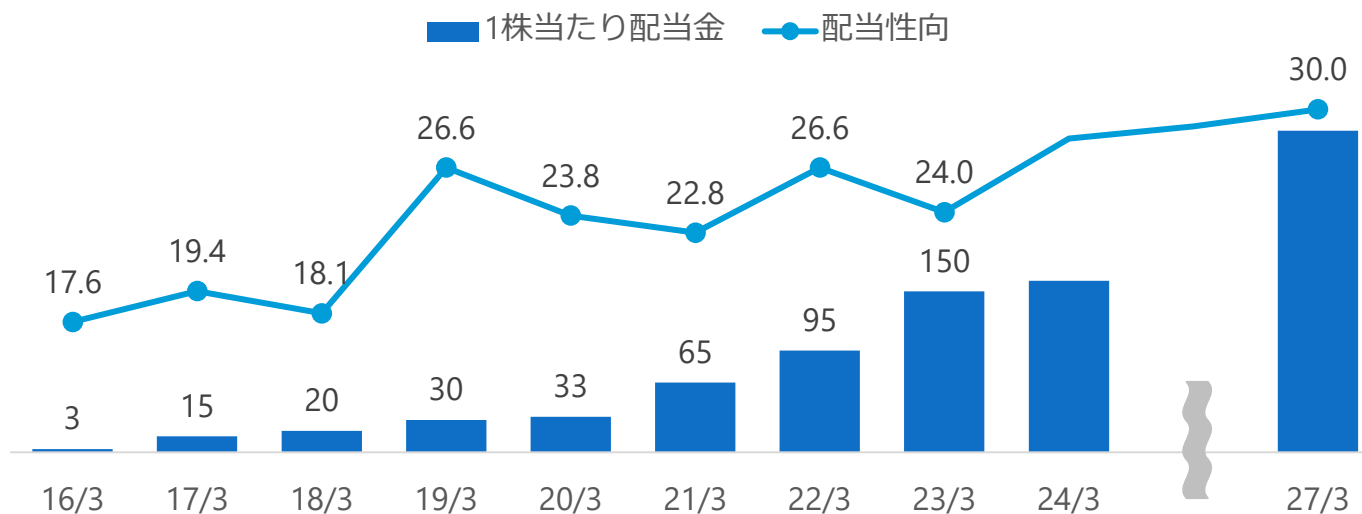
★ 継続的な企業価値拡大とともに安定した株主還元を継続

◆ 8期連続増配中

- 2016.3期より連続増配中

◆ 増収増益基調

- 今後も高い成長が予想される半導体・電子部品及び製薬分野を中心に増収増益を目指し、企業価値拡大を目指す
- 健全な財務基盤を維持しつつ、配当性向30%を目標にバランスの取れたキャッシュアロケーションを実践



- 本資料には野村マイクロ・サイエンス株式会社(以下、弊社)の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述及び資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述及び資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

野村マイクロ・サイエンス株式会社

総務部

TEL 046-228-5195

URL <https://www.nomura-nms.co.jp>